

〔新規需要拡大をめざした切り花向けポインセチ生産技術の確立〕

## 効率的な栽培技術の検討

橋本智明

(江戸川分場)

---

【要約】花芽分化期前後(9月下旬)のわい化剤処理は、効率的な活用法が見出せない。また、切り花を目的とした地植え栽培は、省力栽培、商品性向上技術として有効である。

---

### 【目的】

切り花生産の効率化を目標に繁殖技術や効率的な栽培技術の改善を図っている。そこで、安定生産への貢献が期待できるわい化剤の活用法と切り花生産の基本的技術である地植え栽培を検討する。

### 【方法】

(実験1) わい化剤の活用法

1. 供試品種：切り花ポインセチアの主要品種「キャンドル・レッド、ジェスターレッド」
2. 挿し芽6/20 鉢上げ7/17 ピンチ7/27。5号鉢に江戸川分場標準用土1本植え  
江戸川分場標準用土：赤土：ピートモス：腐葉土=5：3：2（容積比）利用  
基肥：マグアンプK 5g/ℓ 過リン酸石灰 3g/ℓ 苦土石灰 0.2g/ℓ
3. ホース灌水。9～10月は、週1回・液肥（10-10-10）1000倍液施用。行灯仕立栽培
4. 管理：9月末までに、15cm以内の側枝を除去
5. 処理内容：わい化剤（バクロブトラゾール 5,000, 10,000倍液）を9/7, 9/22 及び10/6に土壤かん注（100ml/鉢）

(実験2) 地植え栽培の検討

1. 供試品種：切り花ポインセチアの主要品種「キャンドル・レッド、ジェスターレッド」
2. 挿し芽6/20 ピンチ7/27 定植7/12 1×5m床、20×20cmフラワーネット利用。
3. 底面灌水方式、灌水チューブとホースの併用。
4. 地植え栽培床の作成：従来の鉢物管理用栽培ベットの撤去し、3月より、30cmの深さを目標にスコップにより土壌つくりを行い、地植え栽培用の床を作成。

### 【成果の概要】

1. 花芽分化期前後のわい化剤処理は、効率的な活用法が見出せない（表1, 2）。
2. 地植え栽培の切り花特性は、鉢栽培同等以上の品質である。特に、「ジェスターレッド」は、着色葉部のボリュームは大きく、商品性向上技術として評価できる（表2）。
3. 10株の切り花本数は、「キャンドル・レッド」50本、「ジェスターレッド」51本。切り花長の割合では、「キャンドル・レッド」でより長い切り花長が多い（図1）。
4. 灌水チューブとフラワーネットを併用することで、省力栽培ができる。
5. まとめ：花芽分化期前後のわい化剤処理は、効率的な活用法が見出せない。また、地植え栽培は、省力栽培、商品性向上技術として期待できる。
6. 留意点：今回の地植え栽培では、切り花長の不揃いがみられる。また、連作への影響が明らかでない。

表1 わい化剤の影響 (供試品種名：キャンドル・レッド)

処理日	濃度	切花長	切花重	葉枚数	節間長	花苞葉の	
		cm (A)	g	枚 (B)	(A)/(B)	大きさcm	
9/8	5,000	40	28	22	1.8	7.7	7.9
	10,000	44	28	21	2.1	7.8	7.8
9/22	5,000	39	24	24	1.6	8.2	8.4
	10,000	43	28	20	2.1	8.0	8.1
10/6	5,000	39	24	21	1.8	7.6	7.9
	10,000	40	22	22	1.9	7.6	7.8
無処理		46	34	24	1.9	7.7	8.3

表2 わい化剤の影響 (供試品種名：ジェスター・レッド)

処理日	濃度	切花長	切花重	葉枚数	節間長	花苞葉の	
		cm (A)	g	枚 (B)	(A)/(B)	大きさcm	
9/8	5,000	40	31	14	2.9	12.8	13.9
	10,000	43	35	15	2.9	13.5	14.3
9/22	5,000	42	39	15	2.7	13.1	13.3
	10,000	41	33	15	2.8	13.0	14.1
10/6	5,000	40	33	15	2.6	12.7	13.5
	10,000	40	34	16	2.5	14.8	16.0
無処理		43	33	15	2.9	12.6	13.5

表3 地植え栽培ポインセチアの切り花特性調査

品 種 名	切花長 cm (A)	茎の太さ mm			切花重 g	葉枚数 枚 (B)	節間長 (A)/(B)	花苞葉の 大きさcm	
		上	中	下				8.7	9.2
キャンドル・レッド	43	53	56	60	37	25	1.7	8.7	9.2
ジェスター・レッド	42	52	60	61	30	17	2.4	15.7	16.9

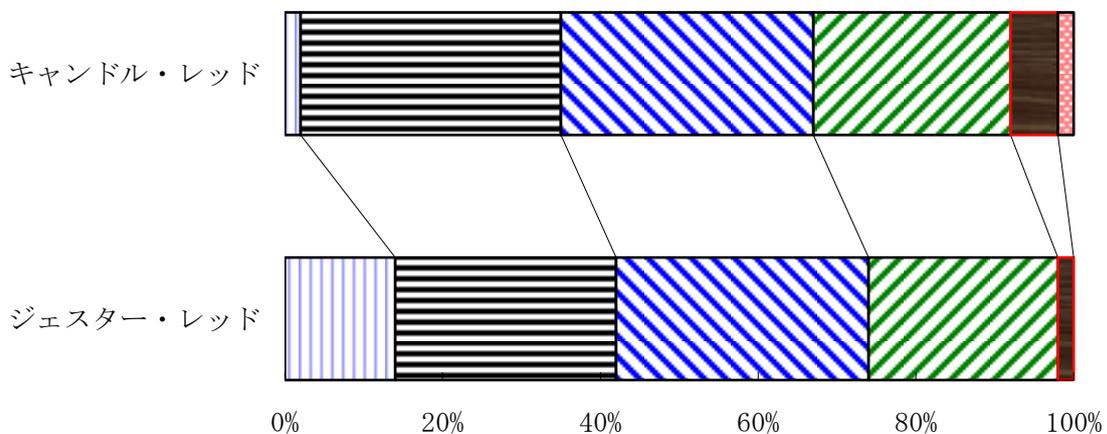


図1 地植え栽培ポインセチアの切り花長割合